

Helios Type 69 EQ and Preamp Collection

伝統的なロック、ポップ、レゲエの歴史を彩ったサウンドで思いのままにレコーディング

イギリスのHelios CompanyとそのカスタムType 69スタジオコンソールは、Led Zeppelin、The Beatles、Jimi Hendrix、Pink Floyd、The Who、Bob Marley、Queen、David Bowie、Genesis、ELO、Black Sabbath、AC/DC、Iggy Popなど、多くのレジェンドアーティストによって使用されており、そのリストは膨大なものになります。

UAのすべてを刷新したHelios Type 69 Preamp and EQは、今やハードウェアと同じ躍動感のある低域、パンチがあり、アグレッシブなミッドレンジなど、有名なスタジオで採用されていたサウンドをデスクトップに再現します。

主な機能:

- オリジナルのOlympic世代のType 69コンソールモジュールを世界で唯一詳細に再現したHeliosプラグイン
- ロック、ポップス、レゲエのレコーディングで常に最高のサウンドをトラックに与える。
- マイクプリアンプ付きのUAオーディオインターフェイスを使用してリアルタイムにType 69の“本物のサウンド”でレコーディング可能
- Unison™テクノロジーを使用したType 69プラグインからUAオーディオインターフェイスのマイクプリアンプのゲインステージを直接コントロール
- UAD-2ハードウェア上でHelios Type 69 Preamp and EQを使い、プロセッシング
- 唯一、詳細にわたって再現されたHelios Type 69 Preamp and EQサーキットのエミュレーション

Operational Overview

The Helios Type 69 プラグイン

Helios Type 69 Preamp and EQコレクションは、Helios Type 69とHelios Type 69 Legacyからなる2種類の異なるプラグインで構成されています。コントロール類は似ていますが、それぞれのプラグインは独自の機能を備えています。

Helios Type 69

Helios Type 69は、オリジナルの Danner アウトプット・アッテネーションフェーダーを含む2基のHelios Type 69 モジュールの“ゴールデンユニット”を深く分析した結果に基づいています。

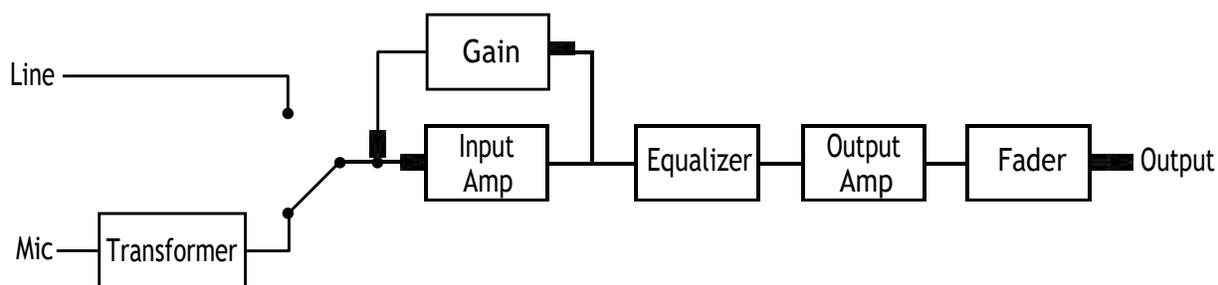
UAのHelios Type 69は、このレアなプリアンプとEQ回路を詳細な部分まで本格的なモデリングを行っています。(UAオーディオインターフェイスで使用した場合の実際の物理インピーダンス・スイッチを含む) Lustraphoneインプットトランス・モデルから始めるこれらの厳選された“Olympic”期のHeliosモジュールから、非常に詳細なモデリングを作成しました。トランスステージの後には、Heliosのフィードバックスタイル・バイポーラー“トリプルアンプ”アンプサーキットが搭載されています。この回路は、独特の設計によってリッチなノンリニアリティサウンドが得られます。

アグレッシブな3バンドパッシブEQも忠実にモデリングされ、UAの研究開発によるHeliosカスタムインダクターのサチュレーション動作もその恩恵を受けています。EQは、オリジナルの能力を満足のいく結果で限りなく限界まで追い込んでいます。



右: Helios Type 69インターフェイス

シグナルフロー・ダイアグラム



Helios Type 69内の基本的なシグナルフロー

アーティストプリセット

Helios Type 69には有名アーティストが提供するプリセットを収録しています。アーティストプリセットは、ホストDAWアプリケーションのプリセットメニュー、UADツールバーのセッティングメニュー、またはApollo/ArrowのConsoleソフトウェアのプリセットマネージャーからアクセス可能です。アーティストプリセットは、Helios Type 69 Legacyでは使用できません。

Chris Coady	Joe Chiccarelli
J.J. Blair	Vance Powell
Jacquire King	

Helios Type 69のプリセットを提供しているアーティスト

Unison™ の相互作用



Helios Type 69はUniversal AudioのApolloとArrowオーディオインターフェイスのマイクプリアンプ・ハードウェアと統合した動作を行うためにUnisonテクノロジーを採用しています。Unison対応のインターフェイスで使用すると、超クリアなマイクプリアンプがHelios Type 69ハードウェアプリアンプ独特な音色、インプットキャラクター、機能のすべてを再現します。

注: Unisonは、Helios Type 69がApollo/ArrowのConsoleアプリケーション内の専用Unisonインサートスロットで使用されている場合にのみ有効になります。詳細については、“Apolloソフトウェアマニュアル”または“Arrowマニュアル”を参照してください。

リアルなコントロールの連携

Unisonは、UAオーディオインターフェイス上のデジタルコントロールされているパネルのハードウェア、やプラグインのインターフェイスの両方を使用してHelios Type 69プラグインの設定をシームレスなインタラクティブコントロールを行うことができます。すべてのプリアンプ・コントロール(ゲイン、パッド、フェイズ)をミラーリングし、どちらからもコントロールすることが可能です。プリアンプ・コントロールは、Helios Type 69ハードウェアとまったく同じ動作特性で調整を可能にします。

ハードウェア・インプットインピーダンス

すべてのUnisonマイクプリアンプは、アナログハードウェアの可変入力インピーダンスを備えており、物理的なマイクとプリアンプの相互作用を物理的に切り替えることができます。このインピーダンスの切替えにより、Unisonプリアンプがエミュレートされたユニットのインプット・インピーダンスと一致することを可能にします。それは、マイクのサウンドに大きな影響を与えることができます。電氣的な負荷はA/D変換前の入力で発生するため、リアルさはオリジナルのハードウェアに忠実に行われます。

タクティカル・ゲインステージ

UAオーディオインターフェイスのハードウェアプリアンプ・ノブは、ゲインステージ・モードを使用してUnison プラグイン内のすべてのゲインと使用可能なレベル・パラメーターを個別にコントロールすることができます。インターフェイスからリモートでゲインステージを切替え、コントロールすることができ、複数のゲイン・レベルとそれに関連する音色の着色は、Unison プラグインのソフトウェア・インターフェイスを使用せずに物理的なハードウェアノブを使用してコントロールすることができます。

注: Helios Type 69 LegacyはUnisonテクノロジーに対応していません。

Helios Type 69 Legacy

UAオリジナルのHelios Type 69 EQプラグインは、アナログサーキット・エミュレーションで大きな成果を上げており、発売当時では最高のHelios EQサウンドを実現しました。Helios Type 69 Legacyには、プリアンプエミュレーション、Unisonによるインテグレーション、または新しいHelios Type 69のノンリニア拡張機能が含まれていません。そのためシンプルな機能セットはDSP負荷を抑えられ、DSPリソースに限りのある状況での使用に適しています。



Helios Type 69 Legacyのインターフェイス

コントロールの違い

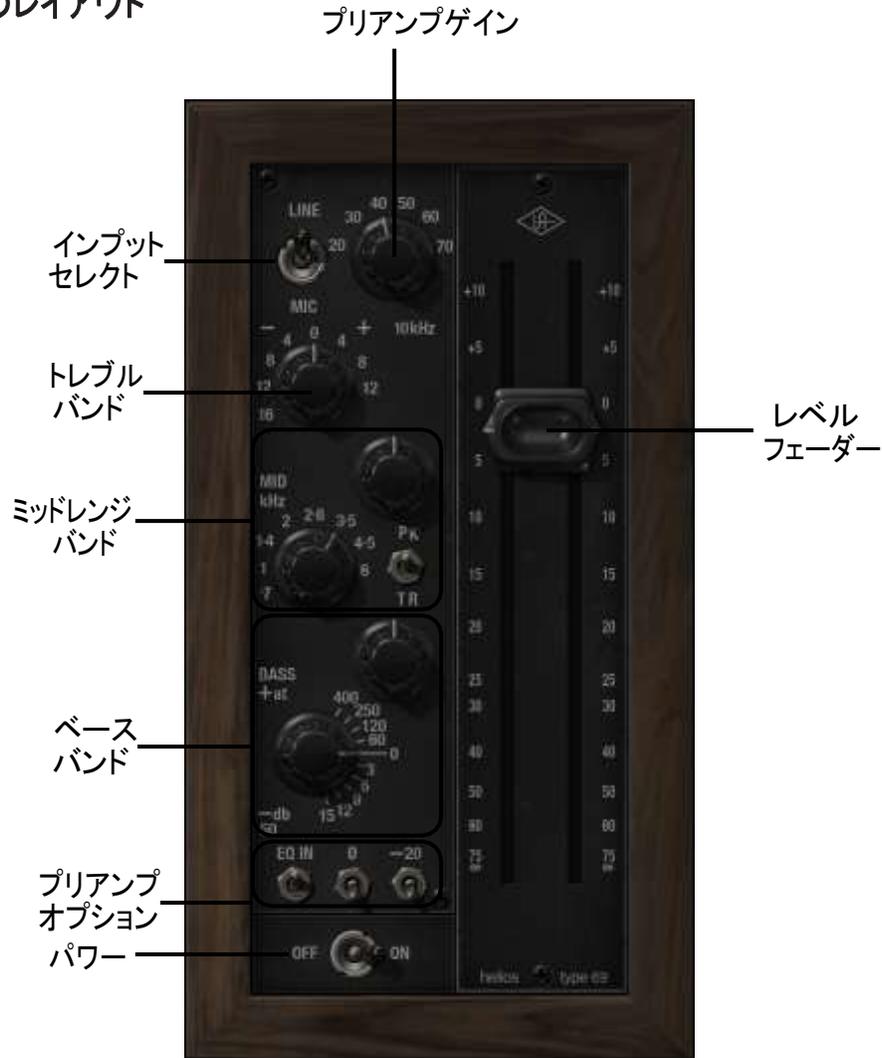
以下のパラメーターは、Helios Type 69に搭載されているものでHelios Type 69 Legacyでは使用することはできません。:

- Unisonテクノロジー
- プリアンプゲイン
- -20 dBパッド
- Mic/Lineインプット・セレクト
- フルトラベル・アウトプットレベルフェーダー(-∞ ~ +10 dB)

Helios Type 69 のコントロール

注: 特に明記しない限り、コントロールの説明は、Helios Type 69 と Helios Type 69 Legacy の両方に共通しています。

コントロールのレイアウト



Helios Type 69コントロールのレイアウト



Helios Type 69 Legacyコントロールのレイアウト

プリアンプのコントロール

注: プリアンプ機能は、Helios Type 69 Legacyでは使用できません。

インプットセレクト(LINE/MIC)

インプットセレクトは、ゲインノブでどの入力(LINE/MIC)をコントロールするかを決定します。コントロールする入力先を変更するには、LINE/MICスイッチをクリックしてください。

このプラグインは、ハードウェアと同じように“バーチャル”マイク入力を使用してラインレベルの信号に歪みを与え、着色することができます。これは、ラインレベルの信号をマイクレベルの入力にルーティングすることと同様で、ゲインを大幅に上げることができます。

注: ラインからマイク入力に切り替える際、(ハードウェアプリアンプの使用時と同じように)出力レベルが大幅に増加する可能性があるので、ご注意ください。

ヒント: LINE、またはMICラベルをクリックすると、その入力に切り替えることができます。

Unisonによる統合コントロール

Helios Type 69をApollo/ArrowのConsoleアプリケーション内のUnisonインサートに使用すると、インプットセレクトのソフトウェアとハードウェアでのコントロールが互いに反映されます。インプットセレクトは、プラグインインターフェイス、ConsoleのMIC/LINEスイッチ、またはApollo/Arrowのハードウェアボタンを使用して変更可能です。Apollo/ArrowでHi-Z入力に接続されると、MICモードが自動的に選択され、LINE/MICスイッチは無効になります。

ゲイン

この6ポジションスイッチは、Helios の“トリプルアンプ”プリアンプサーキットのゲインフィード・ネットワークをコントロールします。ゲイン値の設定は、20、30、40、50、60、70 dBを選択可能です。

ヒント: ゲイン値をジャンプして変更するには、数値インジケータをクリックしてください。

Unisonによるインタラクション

Helios Type 69をApollo/ArrowのConsoleアプリケーション内のプリアンプ専用のUnisonインサートに使用し、チャンネルがUnisonゲインステージ・モードであった場合、ハードウェアのプリアンプノブを使用してこのパラメーターを調整することができます。ゲインステージ・モードでは、このパラメーターにオレンジ色の点が重なり、ハードウェアコントロールで調整可能であることを示します。

ヒント: ゲインステージ・モードに入る方法と終了する方法の詳細については、“Apolloソフトウェアマニュアル”または“Arrowマニュアル”のUnisonの章を参照してください。

EQコントロール

Helios Type 69では、Helios EQのバンド間の相互作用やノンリニアのインダクターやアウトプットアンプの動作をキャプチャーしています。Helios Type 69の設計は、特定のパラメーターを変更するとEQ回路全体に影響が与えられるように作られています。

ヒント: EQセクションをバイパスするとHelios Type 69 (Helios Type 69 Legacyは含みません)では、UAD-2 DSP LoadLockが無効の場合は、UAD DSPの使用率が軽減されます。

ハイシェルフゲイン

Helios Type 69 –ハイシェルフゲイン・ノブは、10kHzで固定した周波数のシェルフインゲイコライゼーションを提供します。このコントロールでは、トレブルを4dBステップで-16dB~+12dBまでブースト/カットすることができます。

Helios Type 69 Legacy –ハイシェルフゲイン・コントロールでは、トレブルを3、6dBカットするか、2dBステップで最大16dBまでブーストすることができます。

ミッド周波数 (MID kHz)

このコントロールは、ミッドレンジの周波数を決定します。以下の周波数を選択可能です。: 700 Hz、1 kHz、1.4 kHz、2 kHz、2.8 kHz、3.5 kHz、4.5 kHz、6 kHz

注: このコントロールのグラフィックインターフェイスでは、ダッシュ(“-”)が小数点を表しているように見えることがあります。これはオリジナルハードウェアのシルクスクリーンの仕様に準じています。

ヒント: 周波数ラベルの数値をクリックすると目的の値にジャンプすることができます。

ミッドゲイン

このコントロールは、ミッドバンドに適用するゲイン、またはアッテネーション量を決定します。最大15dBのブースト、9.9dBのカットを行うことができます。ミッドレンジバンドのQ(帯域幅)は、設定が低い場合はかなり広く、穏やかな効果が得られます。ゲイン値が高くなるにつれて次第に狭くなっていきます。

ミッドタイプ (PK/TR)

ミッドタイプは、ミッドレンジバンドがピークモード、またはトラフモードのどちらで使用するかを決定します。ピークに切り替えると、ミッドゲイン・コントロールがミッドレンジをブーストします。トラフに切り替えると、ミッドゲインがミッドレンジをカットするようになります。

注: スルーを使用すると、プラグインの出力全体で1dBのロスが発生します。これはオリジナルのハードウェアの動作と同様です。

ヒント: “PK”と“TR”ラベルをクリックすると、対応するミッドタイプが切り替わります。

ベース

ベースノブは、その設定に応じて2種類のベースフィルター・タイプの2つの機能を提供します。

注: オリジナルのハードウェアと同じようにこのコントロールを低いピークフィルター周波数に設定するだけでベースゲインが“0”に設定されていてもゲインが増加します。

ベースの周波数値が、60 Hz、100 Hz、200 Hz、400 Hzのいずれかに設定されている場合、ベースはピークモードで動作します。このモードでは、特定の周波数に適用されるゲイン(ベースブースト)の量はベースゲイン・ノブで決定します。

注: Helios Type 69 Legacyでは、最高のベース周波数設定は、300Hzです。

このノブはデシベル値(-3、-6、-9、-12、-15 dB)のいずれかに設定されている場合、ローバンドは、50Hzの周波数に設定された“ベースカット”シェルビングモードになります。

ヒント: シェルビング量とピーク周波数ラベルをクリックすると、各値間をジャンプさせることができます。“+”と“-”ラベルをクリックすると値を増減させることができます。

ベースゲイン

ベースノブが周波数位置内の1つを選択しているときに適用されるベースブーストの量を決定します。ベースゲインを最小値に設定すると、ベースEQ回路はバイパスされます。ベースゲインをゼロから上げていくと、EQ回路が有効になり、オリジナルのハードウェアと同じように3.3dBのブーストが行われます。ベースゲインは、ベースバンド15dBまでブーストすることができます。

注: ベースノブがシェルビング(dBでラベリング)のいずれかの位置に設定されている場合は、ベースゲインの効果はありません。



グローバルコントロール

EQ IN

EQバイパスコントロールです。EQは、スイッチが上向きの際はアクティブで、下向きの位置にある場合はバイパスされます。

ヒント: EQセクションをバイパスするとHelios Type 69 (Helios Type 69 Legacyは含みません)では、UAD-2 DSP LoadLock が無効の場合は、UAD DSPの使用率が軽減されます。

注: Helios Type 69 LegacyでこのパラメーターはEqCutとラベリングされ、その機能は反転されています。

オリジナルのHeliosハードウェアでは、EQスイッチが“Cut”の位置にあってもオーディオはわずかに着色されています。これは、信号が回路内を通過しているためです。プラグインは、あらゆる点でハードウェアをエミュレートしているため、このスイッチがバイパスされていても、信号はわずかに着色されています。

ヒント: トゥルーバイパスが必要な場合は、電源(オン/オフ)スイッチを使用してください。Helios Type 69 Legacyでトゥルーバイパスが必要な場合、ラインスイッチを使用してください。

極性(フェイズ:Ø)

極性(Ø)スイッチは信号の極性を反転させます。スイッチが上の位置ある時は信号が反転されます。通常の極性で使用する場合は、スイッチを下向きにしてください。

Unisonによるインタラクション

極性の状態は、ソフトウェア、ハードウェアのコントロールでミラーリングされています。極性は、プラグインインターフェイス、Consoleの極性ボタン、またはUAオーディオインターフェイスのハードウェア極性ボタンを使用して反転させることができます。

-20 (パッド)

-20(パッド)スイッチは、入力信号を20dB減衰させます。このスイッチは、プラグインがマイク入力モードの場合のみ機能します。

Unisonによるインタラクション

パッドスイッチの状態は、ソフトウェア、ハードウェアのコントロールでミラーリングされています。パッドは、プラグインインターフェイス、Consoleのパッドボタン、またはUAオーディオインターフェイスのハードウェア・パッドボタンを使用して切り替えることができます。

注: パッド機能は、Helios Type 69 Legacyでは使用できません。

レベル

オリジナルのDannerコンソール・アウトプットフェーダーをモデルにしたこのコントロールは、Helios Type 69の信号出力レベルを調整します。これは、信号がEQ設定で大幅にブーストやカットされた場合のゲイン補正に便利です。使用可能な範囲は、 $-\infty$ dB ~ +10 dBまでです。設計上、レベルフェーダーは、信号経路の最後のコンポーネントとしてクリーンで無着色の減衰のみを提供します。便宜上、10dBの無着色のブーストがあらかじめ追加されています。

ヒント: “0”ラベルをクリックするとレベルフェーダーをユニティゲイン位置に戻します。

注: Helios Type 69 Legacyではこのコントロールは、“Level Adjust”というラベルが付いています。使用可能な範囲は-20 dB ~ +10 dBまでです。

Unisonによるインタラクション

パッドスイッチの状態は、ソフトウェア、ハードウェアのコントロールでミラーリングされています。パッドは、プラグインインターフェイス、Consoleのパッドボタン、またはUAオーディオインターフェイスのハードウェア・パッドボタンを使用して切り替えることができます。

プラグインがApollo/ArrowのConsoleアプリケーション内のプリアンプ専用のUnisonインサートで使用し、インターフェイスがUnisonゲインステージ・モードであった場合、ハードウェアのプリアンプノブを使用してこのパラメーターを調整することができます。この状態では、Heliosの2番目のゲインステージとして、このパラメーターに緑色の点が重なり、ハードウェアコントロールで調整可能であることを示します。

電源(オン/オフ)

電源スイッチは、プラグインがアクティブかどうかを判断します。これは処理した設定と元の信号を比較する場合や、UAD DSPの負荷を軽減するためにプラグインをバイパスする場場合に便利です。UAD-2 DSP LoadLockが有効な場合は負荷は軽減されません。

注: Helios Type 69 Legacyでは、このコントロールは、“LINE”とラベリングされています。スイッチをクリックすると、状態を変更します。“LINE”スイッチはプラグインがアクティブな時、緑色で点灯します。



Helios Type 69コンソールをレコーディングに使用したアルバムのリスト

The Beatles "All You Need Is Love" (1967, Olympic Studios)	Stephen Stills "Stephen Stills" (1970, Island Studios)	The Rolling Stones "Exile on Main Street" (1972, Olympic Studios / Rolling Stones Mobile)	Slade "Slide in Flame" (1974, Olympic Studios)	Iggy Pop "The Idiot" (1977, Musicland Studios)
The Beatles "Magical Mystery Tour" (1967, Olympic Studios)	Traffic "John Barleycorn Must Die" (1970, Olympic Studios)	Mott the Hoople "All the Young Dudes" (1972, Olympic Studios)	10cc "The Original Soundtrack" (1975, Strawberry Studios)	Eric Clapton "Slowhand" (1977, Olympic Studios)
Jimi Hendrix Experience "Are You Experienced?" (1967, Olympic Studios)	Roy Budd Soundtrack to "Get Carter" (1970, Olympic Studios)	Eric Clapton "Eric Clapton's Rainbow Concert" (1973, Ronnie Lane's Mobile Studio)	Bad Company "Straight Shooter" (1975, Ronnie Lane's Mobile Studio)	Giorgio Moroder "From Here to Eternity" (1977, Musicland Studios)
Jimi Hendrix Experience "Axis: Bold As Love" (1967, Olympic Studios)	B.B. King "In London" (1971, Olympic Studios)	Eagles "Desperado" (1973, Island Studios)	Bob Marley & The Wailers "Natty Dread" (1975, Harry J. Studios)	Joni Mitchell "Don Juan's Reckless Daughter" (1977, Island Studios)
The Rolling Stones "Their Satanic Majesties Request" (1967, Olympic Studios)	Deep Purple "Fireball" (1971, Olympic Studios)	Emerson Lake & Palmer "Brain Salad Surgery" (1973, Olympic Studios)	Bob Marley & The Wailers "Live!" (1975, Rolling Stones Mobile)	Judas Priest "Sin After Sin" (1977, Rampport Studios)
The Rolling Stones "Between The Buttons" (1967, Olympic Studios)	Frank Zappa "200 Motels" (1971, Rolling Stones Mobile)	George Harrison "Living In The Material World" (1973, Apple Studios)	Donna Summer "Love To Love You Baby" (1975, Musicland Studios)	Motörhead "Motörhead" (1977, Olympic Studios)
Procol Harum "A Whiter Shade of Pale" (1967, Olympic Studios)	Graham Nash "Songs For Beginners" (1971, Island Studios)	Led Zeppelin "Houses of the Holy" (1973, Olympic Studios)	Electric Light Orchestra "Face The Music" (1975, Musicland Studios)	Peter Gabriel "Peter Gabriel" (1977, Olympic Studios)
Traffic "Mr. Fantasy" (1967, Olympic Studios)	Harry Nilsson "Nilsson Schmilsson" (1971, Island Studios)	Mike Oldfield "Tubular Bells" (1973, The Manor Studios)	Eric Clapton "E.C. Was Here" (1975, Ronnie Lane's Mobile Studio)	The Stranglers "Rattus Norvegicus" (1977, Olympic Studios / Island Mobile)
Sammy Davis Jr. Songs for the musical "Doctor Dolittle" (1967, Olympic Studios)	Howlin' Wolf "The London Howlin' Wolf Sessions" (1971, Olympic Studios)	Paul McCartney & Wings "Red Rose Speedway" (1973, Olympic Studios / Island Studios)	Led Zeppelin "Physical Graffiti" (1975, Olympic Studios / Island Studios)	David Bowie "Low" (1977, Hansa Tonstudio)
Jimi Hendrix Experience "Electric Ladyland" (1968, Olympic Studios)	Jethro Tull "Aqualung" (1971, Island Studios)	Ringo Starr "Ringo" (1973, Apple Studios)	Peter Frampton "Frampton" (1975, Olympic Studios)	David Bowie "Heroes" (1977, Hansa Tonstudio)
The Rolling Stones "Beggars Banquet" (1968, Olympic Studios)	Led Zeppelin "Led Zeppelin IV" (1971, Rolling Stones Mobile / Island Studios)	The Ozark Mountain Daredevils "The Ozark Mountain Daredevils" (1973, Olympic Studios)	Queen "A Night at the Opera" (1975, Olympic Studios)	Iggy Pop "Lust for Life" (1977, Hansa Tonstudio)
Traffic "Hole In My Shoe" (1968, Olympic Studios)	The Faces "A Nod Is As Good As a Wink... to a Blind Horse" (1971, Olympic Studios)	The Wailers "Burnin'" (1973, Harry J. Studios / Island Studios)	Stephen Stills "Stills" (1975, Island Studios)	Electric Light Orchestra "Out of the Blue" (1977, Musicland Studios)
Traffic "Traffic" (1968, Olympic Studios)	Leon Russell "Leon Russell And The Shelter People" (1971, Island Studios)	The Who "Quadrophenia" (1973, Ronnie Lane's Mobile Studio)	Supertramp "Crisis? What Crisis?" (1975, Rampport Studios)	Bob Marley & The Wailers "Kaya" (1978, Island Studios)
The Zombies "Odessey and Oracle" (1968, Olympic Studios)	Stephen Stills "Stephen Stills 2" (1971, Island Studios)	Toots & The Maytals "Funky Kingston" (1973, Island Studios)	The Rocky Horror Picture Show "The Rocky Horror Picture Show" (1975, Olympic Studios)	Bob Marley & The Wailers "Babylon By Bus" (1978, Island Mobile)
Joe Cocker "With a Little Help from My Friends" (1969, Olympic Studios)	Supertramp "Indelibly Stamped" (1971, Olympic Studios)	Bad Company "Bad Company" (1974, Olympic Studios)	The Who "Who By Numbers" (1975, Ronnie Lane's Mobile Studio / Rampport Studios / Island Mobile)	Eric Clapton "Blackless" (1978, Olympic Studios)
Ella Fitzgerald "Ella" (1969, Olympic Studios)	Ten Years After "A Space in Time" (1971, Olympic Studios)	Barclay James Harvest "Everyone Is Everybody Else" (1974, Olympic Studios)	Andrew Lloyd Webber & Tim Rice "Evita" (1976, Olympic Studios)	Dire Straits "Dire Straits" (1978, Island Studios)
Led Zeppelin "Led Zeppelin I" (1969, Olympic Studios)	The Rolling Stones "Sticky Fingers" (1971, Olympic Studios)	Bryan Ferry "Another Time, Another Place" (1974, Island Studios / Rampport Studios)	Bob Marley & The Wailers "Rastaman Vibration" (1976, Harry J. Studios)	Giorgio Moroder "Midnight Express (Music From The Original Motion Picture Soundtrack)" (1978, Musicland Studios)
Rod Stewart "An Old Raincoat Won't Ever Let You Down" (1969, Olympic Studios)	The Who "Who's Next" (1971, Olympic Studios)	Camel "Mirage" (1974, Island Studios)	David Bowie "Diamond Dogs" (1976, Olympic Studios / Island Studios)	Little Feat "Waiting for Columbus" (1978, Manor Mobile)
The Rolling Stones "Let It Bleed" (1969, Olympic Studios)	Traffic "The Low Spark Of High Heeled Boys" (1971, Island Studios)	Deep Purple "Burn" (1974, Rolling Stones Mobile)	Electric Light Orchestra "A New World Records" (1976, Musicland Studios)	The Who "Who Are You" (1978, Rampport Studios / Olympic Studios)
Quincy Jones Soundtrack to "The Italian Job" (1969, Olympic Studios)	Alan Price Soundtrack to "O' Lucky Man" (1971, Olympic Studios)	Deep Purple "Stormbringer" (1974, Musicland Studios)	Joan Armatrading "Joan Armatrading" (1976, Olympic Studios)	The Rolling Stones "Some Girls" (1978, Rolling Stones Mobile)
Andrew Lloyd Webber & Tim Rice "Jesus Christ Superstar - A Rock Opera" (1970, Olympic Studios)	Big Youth "Screaming Target" (1972, Harry J. Studios)	Eagles "Eagles" (1972, Olympic Studios)	Led Zeppelin "Presence" (1976, Musicland Studios)	Tangerine Dream "Force Majeure" (1978, Hansa Tonstudio)
Black Sabbath "Black Sabbath" (1970, Island Studios)	Deep Purple "Machine Head" (1972, Rolling Stones Mobile)	Elton John "Don't Shoot Me I'm Only The Piano Player" (1972, Strawberry Studios)	Rory Gallagher "Calling Card" (1976, Musicland Studios)	AC/DC "Highway To Hell" (1979, Island Studios)
Black Sabbath "Paranoid" (1970, Island Studios)	Eagles "On The Border" (1974, Olympic Studios)	Funkadelic "America Eats Its Young" (1972, Olympic Studios)	Queen "A Day At The Races" (1976, The Manor Studios)	Frank Zappa "Sheik Yerbouti" (1979, Manor Mobile)
Free "Fire & Water" (1970, Island Studios)	Genesis "The Lamb Lies Down On Broadway" (1974, Island Studios / Island Mobile)	Genesis "Fox Trot" (1972, Island Studios)	Santana "Moonflower" (1976, Rolling Stones Mobile)	Led Zeppelin "In Through The Out Door" (1979, Strawberry Studios)
Ginger Baker Airforce "Airforce 2" (1970, Olympic Studios)	King Crimson "Red" (1974, Olympic Studios)	Harry Nilsson "Son Of Schmilsson" (1972, Apple Studios)	The Rolling Stones "Black and Blue" (1976, Musicland Studios / Rolling Stones Mobile)	"Orchestral Manoeuvres In The Dark Electricity" (1979, Strawberry Studios)
Led Zeppelin "Led Zeppelin II" (1970, Olympic Studios)	Rick Wakeman "Journey To The Centre Of The Earth" (1974, Ronnie Lane's Mobile Studio)	Hugh Masekela "Home Is Where the Music Is" (1972, Island Studios)	Thin Lizzy "Jailbreak" (1976, Rampport Studios)	Electric Light Orchestra "Discovery" (1979, Musicland Studios)
Led Zeppelin "Led Zeppelin III" (1970, Olympic Studios / Rolling Stones Mobile / Island Studios)	Rory Gallagher "Irish Tour '74" (1974, Ronnie Lane's Mobile Studio)	Mott The Hoople "All The Young Dudes" (1972, Olympic Studios)	Original Cast Recording Tim Rice and Andrew Lloyd Webber's "Evita" (1976, Olympic Studios)	Life of Brian Soundtrack (1979, Olympic Studios)
Eric Clapton "Eric Clapton" (1970, Olympic Studios)	Supertramp "Crime of the Century" (1974, Rampport Studios)	Slade "Slade Alive!" (1972, Olympic Studios)	Bob Marley & The Wailers "Exodus" (1977, Harry J. Studios / Island Studios)	Peter Gabriel "Peter Gabriel III" (1980, Manor Mobile)
Leon Russell "Leon Russell" (1970, Olympic Studios / Island Studios)	The Rolling Stones "It's Only Rock & Roll" (1974, Musicland Studios)	Ten Years After "Rock & Roll Music to the World" (1972, Olympic Studios)	Donna Summer "I Remember Yesterday" (1977, Musicland Studios)	Queen "The Game" (1980, Musicland Studios)
Memphis Slim "Blue Memphis" (1970, Olympic Studios)	The Who "Tommy - Original Soundtrack Recording" (1974, Rampport Studios)	Paul McCartney "McCartney" (1970, Paul McCartney's Home Studio)		The Rolling Stones "Emotional Rescue" (1980, Rolling Stones Mobile)
				Pink Floyd "The Final Cut" (1983, Olympic Studios)

